



### 目次

- |                                 |                                 |
|---------------------------------|---------------------------------|
| P.1 第20回 World Youth Meeting 報告 | P.5 学部生の自己評価からみる国際福祉開発学部での学びの意義 |
| P.2 日本福祉大学から青年海外協力隊へ            | P.6 1年生 国際フィールドワーク、今年も!!        |
| P.3 留学生に突撃インタビュー                | P.6 学部の今後の予定など                  |
| P.4 将来、生徒たちに伝えたいアメリカ留学での学び      |                                 |

## 国際協働学習プロジェクト 第20回World Youth Meeting報告

教員 佐藤 慎一・影戸 誠



学んだ英語が力となり、友情となり、国際貢献となる――。

第20回の節目を迎えた、英語プレゼンテーション大会および国際交流イベントであるワールドユースミーティング（文部科学省後援）は、日本福祉大学東海キャンパスと立命館大学びわこ・くさつキャンパスで同時開催され、国内外から2日間でのべ約800名の高校生、大学生が参加しました。国内19校、海外9か国（ベトナム、インド、台湾、カンボジア、インドネシア、マレーシア、韓国、フィリピン、中国）から33校が参加し、合計52校の参加です。大会テーマは「What does well-being mean for our future?」（私たちにとってのふくしと未来）です。

国際福祉開発学部では、正課科目「国際交流ファシリテーション演習」を通じて、主に1・2年生中心のWYM学生実行委員会の組織化支援を行い、イベント運営に必要なマネジメント力、チームで協働する力、ICT活用による事前の海外協定校との相互交流と学習、英語指導等を行ってきました。海外協定校との協働で英語プレゼンテーションに取り組む各チームは大会前4か月間、2か国、あるいは3か国でチームを作り、論議を重ねプレゼンテーションを作成し、当日はそれぞれが力を尽くして発表を行いました。



プレゼンの様子

日本福祉大学から青年海外協力隊へ ～世界で拓く私たちの未来～

## 国際福祉開発学部十周年記念公開セミナー第一弾 実施報告

担当教員 小國 和子



7月22日のオープンキャンパスにあわせて、国際福祉開発学部開設10周年記念事業第一弾として、公開セミナー「日本福祉大学から青年海外協力隊へ～世界で拓くわたしたちの未来」が開催されました。暑い中、高校生はじめ80名近い参加者が駆けつけてくださり、大変盛況でした。

パネリストとして集った卒業生はカンボジア、インドネシア、ウズベキスタン等での協力隊参加者で、みな自分なりに一つ一つの経験を糧にしてキャリアを歩んでおり、頼もしい限りでした。学部時代の学びは、必ずしもそのまま様々な経験値や技術が求められる海外での協力現場で「使えるスキル」になるとは限らないけれど、問題に直面した時に相手に寄り添ったり、柔軟であろうとしたり、自分で答えを模索し続ける姿勢は、この学部で



アフリカのベナンとオンラインで対話！

共通に培われてきたということが、彼らの発言から伝わり、感慨深かったです。

セミナーの後半では、アフリカのベナンに派遣中の卒業生、中野敬太さんと、オンラインでのトークができました。国際協力の現場にいるからこそ伝えられる、等身大で葛藤する姿がかっこよく、その成長ぶりに、会場にかけつけた仲間や後輩の多くが、感動したと伝えてくれました。

当日の進行役として見事にアフリカと日本をつなぎ、通信環境を支えてくれた卒業生の日野恵実さんもまた、学生時代からICTスキルを高め、その業界へ就職し、且つこれから青年海外協力隊として、アフリカのザンビアへPCインストラクターとしての合格が決まっています。たくましい卒業生の姿を見て、学部開設以来、ひとつひとつ積み上げてきたことが、10年経ってやっと顕在化しつつある手ごたえを感じる事が出来ました。

各自の個性を大切に育てながら、他者に寄り添い支えることに喜びを感じる人間性を養える教育現場であり続けられるよう、教員も益々頑張りたいと思います！



語りたいた事が溢れ出す卒業生パネリスト

ご後援くださったJICA 中部はじめ、ご協力下さった皆様、当日のすべての参加者に、心からお礼申し上げます。ありがとうございました！



日本福祉大出身の協力隊員は既に150人近く

## 留学生に突撃インタビュー

国際福祉開発学部 2年 Vy Thi Thanh Huong (フォン) ベトナム

国際福祉開発学部 1年 徐 曉琳 (リン) 中国

**Q：国際の生活はどうか？**

**リン**：大学に入る前はとても緊張していた。日本人と友達ができるかどうか心配していた。いまは慣れてきた。日本人と一緒に授業しているとみんながとてもやさしい。わからないことがあれば教えてくれるし、いつも声をかけてくれて、とてもよかったと思う。

**Q：フォンさんは入った時に、留学生がほとんどいなかったよね？**

**フォン**：はい。日本語学校の時、外国人ばかりだった。この大学を選んだのは、留学生があまりいないと聞いていたし、英語を習う機会もあるので日本語を勉強できるからだった。一番難しかったのは、日本人と平等で日本語で授業を受けることだった。数ヶ月経って、日本人の友達もでき、授業がわからないと友達が色々答えてくれるようになった。なので、だんだん慣れて楽しくなった。今はまだ100%はわからないけど、先生が話している内容が難しいときなど、周りの日本人友達が助けてくれるから、大丈夫です。

**リン**：私も、日本語での授業がわからないときは、日本人の友達のメモの写真を携帯でとって、家に帰って復習する。特に試験の時はそれが重要です。以前いた日本語学校は中国人ばかりで、中国語でしか会話しなかった。でも大学にきて、日本語ばかり喋るから、能力が上がって来た。英語も勉強できるのもいい。私は将来、空港で働きたいと思っているから、英語も中国語も日本語もできるといいと思う。

**Q：フォンさんは将来なにかしたいことありますか？**

**フォン**：今の時点はまだ決まってない。3年生になって、自分の好きなことを見つけようときたいしている。将来は英語・日本語・中国語・ベトナム語を全部使う仕事したいです。

**Q：4つも言語できるなんてすごい!! 日本人学生を超えていますよ(笑) ところで好きな科目は？**

**フォン**：英語です。英語が話せるようになりたいから、英語の科目が一番好きです。ほかの科目は日本語ばかりなので、…理解できるようになるのを待っています(笑)

**リン**：私は留学生の日本語の授業と TOEIC の授業です。TOEIC の英語が好き。

**Q：じゃ、これから国際福祉開発学部に入ろうとしている留学生に、何かメッセージありますか？**

**リン**：入学前に、できるだけ英語を覚えたほうがいいと思う。簡単な単語でもいいから。英語の授業が多いから、全然できないとちょっとショックだと思う。

**フォン**：そうそう、最初は、日本語で英語の授業を受けるときにすごく混乱しました。英語を勉強するのに日本語で説明があるけど、その日本語が理解できないから困った。

**リン**：後、今 TOEIC の授業は英語のテストが多いし、英語の文書を日本語に翻訳しないといけないけど、私たちは、英語が理解できても日本語に翻訳できないから点が取れないときがある。ちょっと難しい。英語と日本語を復習しないといけない(笑)

**フォン**：学部これから入る留学生のメッセージですね。国際に入学できたら、日本語はもちろん、英語も勉強して、将来のために多言語が使えるようになる。そうしたら、いい仕事ができると思う。国際に入ったら、勉強しながら、日本人とのコミュニケーションをとって、4年間楽しく時間を過ごしましょう。

**流石に先輩たちですね。二人ともありがとうございます！**

留学生 リンさんとフォンさん

## 将来、生徒たちに伝えたいアメリカ留学での学び

国際福祉開発学部 4年（米津ゼミ） 佐藤 星（長野県野沢北高等学校）

### 充実した留学生活

2017年9月から9か月間、アメリカ・ワシントン州にあるクラークカレッジ（Clark College）で語学学習を中心に、様々な経験をしてきました。英語の教員を目指しており、その前に海外経験を積みたかったためです。教科の中で英語は得意な方でしたが、実際に生活するとなると話は別で、初めの数か月は苦労することが多くありました。大学の授業はもちろんすべて英語、課題の量は日本とは比較にならないほどでした。大変に感じることもありましたが、振り返ってみると楽しかった思い出ばかりで、生きてきた中で最も充実した9か月間でした。それも現地でできたたくさんの友人のおかげであり、彼らがいたからこそ乗り越える



修了証を手に

ことができたと思います。わからないことがあれば質問し合い、週末には息抜きにハイキングやドライブに出かけました。アメリカの自然は壮大で、もっと色々な場所に行ってみたいと思うようになりました。

この経験を通し、英語力がついただけではなく、自分自身の成長につながったと思います。難しい課題をクリアしたあとの達成感と喜びは自信となりました。身の回りのこと、そして日本のことを様々な角度から考えられるようになり、以前よりも明るい性格になったという実感もあります。将来、自分の経験をもとに英語を学ぶことの楽しさを生徒たちに伝えられる教員になり、少しでも多くの生徒が海外に興味を持ち、英語を好きになってほしいと思っています。



留学先のクラスメートたちと

### 長野県高等学校英語科教員に合格！

2年次から教職の専門的な授業が始まりましたが、授業内容は簡単ではなく本当に教員になりたいのかもまだわからなかったため、学習に力が入っていなかったというのが正直なところでした。ところが付属高校でのインターンシップや母校での教育実習を体験し、教員という仕事の魅力を感じました。短い期間で生徒たちと良い授業の雰囲気を作り上げるためにはどうしたらいいのか、どうすれば楽しく授業ができるかなど考える中で、生徒たちは色々な表情や反応を見せてくれました。そこにやりがいや楽しさを感じ、そんな生徒たちとこれからまた一緒に学校生活を送ることがで

きるのが今はとても楽しみです。

教員を真剣に目指すようになってからは、授業への取り組み方や意識が変わったような気がします。自分が実際に教壇に立つときのことを思い浮かべながら何事にも積極的に取り組むようになりました。実習先で先生方や生徒たちから学んだこと、そして大学での学びを活かし、自分が理想とする教員を目指して4月から英語の先生として頑張っていきます。

学部生の自己評価からみる国際福祉開発学部での学びの意義

国際福祉開発学部 4年（千頭ゼミ） 前田 雅光（愛知県立鶴城丘高等学校出身）

現在、若者の持つ自己肯定感を研究テーマとして、国際福祉開発学部生が持つ自己肯定感と実践的教育カリキュラムとの因果関係の分析を行っています。今回は現段階でのアンケート分析結果を紹介します。

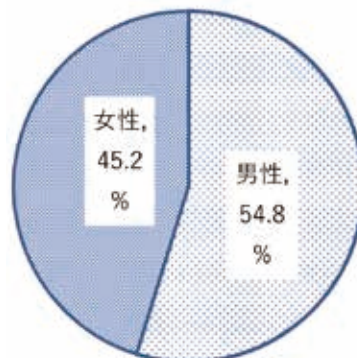
▲アンケート対象者：2～4年生 104名

ヒアリング対象者：学部卒業生

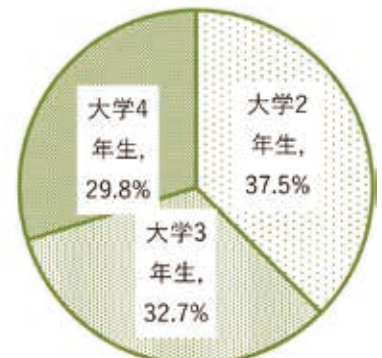
調査時期：2018年7月

▲調査結果の概要（一部）

学年別に自分の思考タイプを分析すると、学年が上がるにつれて、どちらかというといふマイナス、マイナス思考と解答している学生が減少し、プラス思考へと変化しています。これは、学部での学びの中で、ディスカッション形式で自分を発信、相手の意見を聞きお互いを認める学生主体の講義が多く、仲間とのコミュニケーションの経験がプラスに働いていることの表れと推測できます。他者を認めるということは自分を再度見つめ直す機会となり、自分の中にあたりまえが他者のあたりまえではないことに気づく機会が多くあります。つまり、本学部のカリキュラムを通し、他者理解＝自分理解、そして自己を肯定していく事に繋がり、考え方の幅が広がっていくのではないのでしょうか。卒業生へのインタビューで、ほとんどの方が、学生時代に自らの疑問に対し、教職員、仲間と討論し解決策を見つけていくという過程で身につけた探求心と行動力を評価していました。現在の学部生と卒業生に共通しているのは学びに対し探求心を持ち、問い続けていくまさに「学問」を、生涯を通して続けていくことではないのでしょうか。引き続き、分析を進め、卒論としてまとめていきます。

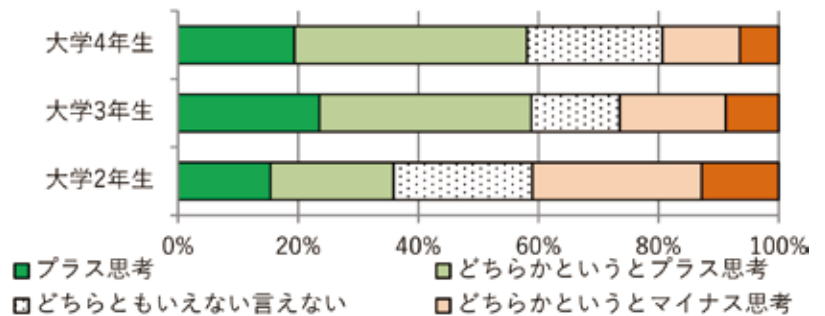


回答者の性別割合

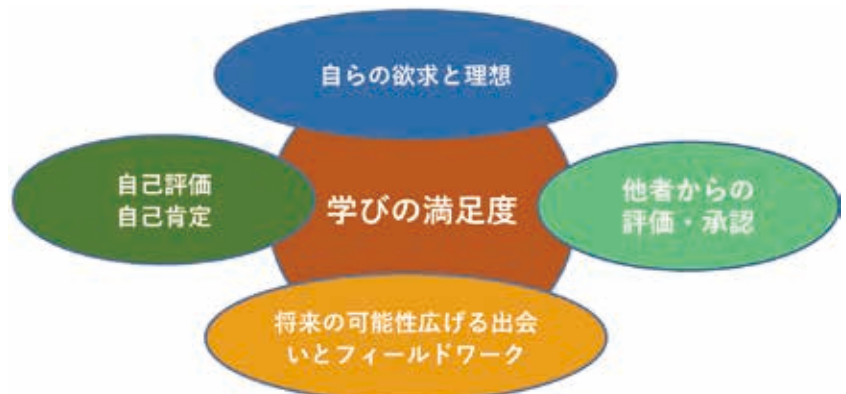
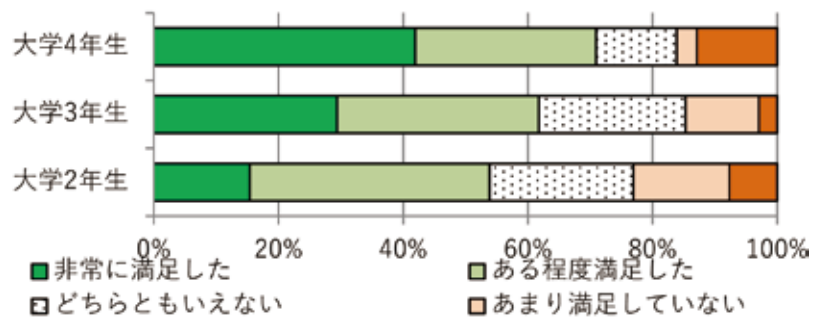


回答者の学年割合

学年別に見た思考タイプ



学年別に見た学びの満足度割合



学びの満足度を高める要因

## 1年生 国際フィールドワーク、今年も!!

国際福祉開発学部では、毎年1年生の春に、国際フィールドワークに出かけます。発展途上国の開発の現場で、五感を使って社会の現状に触れたり、アメリカで集中的に英語のスキルアップを目指したりします。入学後1年間に様々な授業で学んだコミュニケーション力やファシリテーション力、そして英語力を、実際に海外で実践する場としても位置づけています。帰国後にレポートを提出し、所定の審査に通れば4単位が認定されます。

行き先は、フィリピン、マレーシア、カンボジア、インド（隔年）、アメリカ（隔年）。フィリピン大学、マレーシア科学大学、カンボジアのNGO、クラークカレッジなどがプログラムを企画・運営したり、バックアップしてくれたりします。

2018年度は、カンボジア研修が全面的にリニューアルしました。カンボジア北部でコミュニティ開発などに取り組んでいるNGOであるCRDT(Cambodian Rural Development Team)がプログラムを企画立案し、メコン川中州の農村での6日間にわたるホームステイや、学生による水道建設の支援など、多彩な活動を展開しました。詳しくは、次号の学部ニューズレターで報告します。



ドキドキの出発



これぞフィールドワーク!?

### 学部の後期の主な活動

- 10月 2019年度ゼミオリエンテーション  
オープンキャンパス  
Global Lounge ハロウィーン企画  
国際フィールドワーク1国内研修開始  
国際福祉開発学部十周年記念事業第三弾  
- 多文化共生社会にDIVE!する -
- 11月 学内TOEICテスト  
国際福祉開発学部十周年記念事業第四弾  
「日越日本語教育シンポジウム」  
2年生アクティブラーニング活動期間開始
- 12月 4年生卒業論文提出
- 1月 卒業論文発表会
- 2月 国際フィールドワーク1  
フィリピン、マレーシア、カンボジア、アメリカ
- 3月 学位記授与式  
中部国際空港企業説明会  
中部国際空港アルバイトオリエンテーション

最大6か月の  
フィールドワークを実施



とても元気なコミュニティ

発行人：日本福祉大学 国際福祉開発学部  
〒477-0031 愛知県東海市大町川南新田229  
TEL. 0562-39-3811 FAX. 0562-39-3281

編集人：国際福祉開発学部 学部長 吉村 輝彦、学部長補佐 千頭 聡  
お問い合わせ：kokusai@ml.n-fukushi.ac.jp

国際福祉開発学部 ブログ



フェイスブック

